



光和

光和小
携帯サイト

10月号
練馬区立光和小学校
令和2年9月30日



ならぬことはならぬものです

校長 矢島 直行

暑さ寒さも彼岸までと言われますが、2学期が始まって1か月がたち、炎暑も過ぎ去り過ごしやすい季節となりました。例年ですとこの時期は運動会に向けて日々練習に取り組んでいる時期ですが、今年はその分落ち着いて学習に取り組んでいます。

子供たちにとって運動会等の行事は心も体も大きく成長する機会となりますが、コロナ禍により教育活動が制約されてしまいました。そのような中で大切なことは、今できることを一生懸命に取り組み、日々積み重ねることです。学校生活の大半は授業です。授業を充実させていかなければなりません。そのために教員は、子供たちが興味・関心をもつような問題提示の仕方や話し方の工夫、そして、子供たちにとって分かる授業となるように努めています。

また、子供たち同士の学び合いも大切です。学校は集団生活の場です。お互いに学び合い、高め合っていくところです。一人一人子供たちは、考え方や得意なこと、性格など、それぞれ違います。それぞれによさがあります。そのような子供たち一人一人が一緒になることにより、学び合い高め合うことができます。そして、協力することの大切さを学び、互いを思いやる心を育んでいくことができます。

子供たちが日常生活から学び成長していく姿から、以前旅行で行きました会津のことを思い出しました。江戸時代、会津藩では6歳から9歳までの藩士の子供たちは自分たちの町に子供たちだけの集まりをつくりました。その集まりを「什（じゅう）」といいます。そこでは「什の掟」があり、互いに遊びながら守らなければならない約束事を学びました。

「什の掟」とは、

- | | |
|----------------------|----------------------|
| ○年長者の言うことにそむいてはなりません | ○年長者にはおじぎをしなければなりません |
| ○うそをついてはなりません | ○ひきょうなふるまいをしてはなりません |
| ○弱いものをいじめてはなりません | ○戸外でものを食べてはなりません |

ならぬことはならぬものです

この「什の掟」を守るために、子供たち同士が互いに注意し合っていたのです。幼いながらも「集団生活で守らなければならない約束」を身に付け、相手を気遣い、周りに迷惑をかけないことを日常生活の中から学んでいきました。すべてそのまま現代に通用するということはありませんが、共通したルールやマナーがあります。私たち大人も子供たちの思いを受けとめながらも、いじめや嘘をつくことなどは、ならぬことはならぬものです。守らなければならないことはしっかり守らせ、時には、いけないことはいけないと厳しく子供たちを注意することも子供たちを育んでいく一つです。

子供たちを育むためには、学校だけではなく家庭・地域の皆様との連携が必要です。学校と家庭や地域の方とが同じ方向で子供たちを育んでいかなければ子供たちが戸惑ってしまいます。このような時にこそ、「チーム光和」として学校と家庭・地域の方々とが協力しながら、子供たちを育んでいくことが大切です。

保護者と地域の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。